



2016年9月20日

報道関係各位

## 「京都賞 RITA フォーラム」開催のお知らせ

公益財団法人 稲盛財団（理事長 稲盛和夫）は、第 32 回（2016）京都賞関連行事として「京都賞 RITA フォーラム」を開催いたします。本日 9 月 20 日より聴衆募集を開始いたします。本フォーラムでは、世界的な哲学者マーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士（第 32 回京都賞 思想・芸術部門受賞者）出演のもと、「利他×ケイパビリティー—新たな世界への扉—」をテーマに、博士による基調講演や研究者との鼎談を通して、より良い社会や人間の今後のあり方について考えます。

タイトル：「利他×ケイパビリティー—新たな世界への扉—」

日 程：2016 年 11 月 13 日（日） 15：00 開始

会 場：立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム

出 演：マーサ・クレイヴン・ヌスバウム（第 32 回京都賞 思想・芸術部門受賞者）  
後藤玲子（一橋大学 経済研究所 教授）  
サトウタツヤ（立命館大学 稲盛経営哲学研究センター研究員 総合心理学部 教授）  
渡辺公三（学校法人立命館 副総長）

報道関係の皆様におかれましては、告知へのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。  
フォーラムの概要、申込み方法、お問い合わせ先等の詳細は別添資料をご参照ください。

### 【本リリースに関するお問い合わせ先】

公益財団法人 稲盛財団 広報部長 中島 剛 （担当：竹之内 勇人）

〒600-8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町 620 COCON 烏丸 7F

TEL: 075-353-7272 FAX: 075-353-7270 E-mail: [press@inamori-f.or.jp](mailto:press@inamori-f.or.jp)

URL: <http://www.inamori-f.or.jp/>

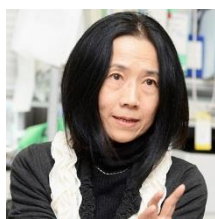
\*本資料は京都大学記者クラブ、京都経済記者クラブに配布しています。

## 京都賞RITAフォーラム 利他×ケイパビリティー—新たな世界への扉—

第 32 回京都賞 思想・芸術部門受賞者であるマーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士を迎え、博士との交流の場として下記のとおりフォーラムを開催いたします。学生や研究者だけでなく、本分野に関心のある社会人の方々のご参加もお待ちしています。(同時通訳有・入場無料)

- 日 時： 2016 年 11 月 13 日 (日) 15 : 00 開始
- 会 場： 立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム  
京都市北区等持院北町 56-1
- 内 容： 挨拶 渡辺公三 (学校法人立命館)  
講 演 マーサ・クレイヴン・ヌスバウム (シカゴ大学)  
鼎 談 後藤玲子 (一橋大学)  
サトウタツヤ (立命館大学)  
マーサ・クレイヴン・ヌスバウム
- 申 込 方 法： 京都賞ウェブサイト内の申込専用フォームからお申込みください  
URL <http://www.kyotoprize.org/>
- お問い合わせ： 稲盛財団 京都賞事務局 TEL 075-371-8177  
京都賞ウェブサイト内の「お問い合わせ」フォームからも承ります
- 主 催： 公益財団法人稲盛財団
- 共 催： 立命館大学稲盛経営哲学研究センター

出演者紹介 ※ヌスバウム博士については別紙参照願います



### 後藤玲子

経済哲学を専門とし、ケイパビリティ・アプローチの理論的・実証的展開、リベラリズムと現代正義論の再構築、セン理論にもとづく厚生経済学的方法的展開について研究を進めている。主著に『正義の経済哲学—ロールズとセン』、『福祉と正義』(アマルティア・センとの共著)、編著『正義』など。



### サトウタツヤ

文化心理学、質的心理学、社会心理学、心理学史を専門とし、狭い意味での心理学にこだわらずに様々な現場における人間の活動 (Life=生・生活・人生・生存) に関する研究を行っている。主著に『心理学の名著』、『方法としての心理学史』、共著『質的心理学ハンドブック』など。



### 渡辺公三

文化人類学を専門とし、現地調査によってアフリカ王制社会のあり方を明らかにし、王権とは社会とは何かを考察しつつ、人類学的思考の近代西欧思想における形成史を考察している。主著に『闘うレヴィ=ストロース』、『アフリカのからだ』、『西欧の眼』など。



## 立命館大学稲盛経営哲学センターについて

### 設立の趣旨

稲盛和夫（京セラ名誉会長、稲盛財団理事長）が実践している「稲盛経営哲学」にもとづく経営手法は、国内はもとより世界から注目され、これまでに経営学分野を中心としてアメーバ経営、組織運営等に関する研究が行われ、稲盛の経営論や人生哲学に関する一般書も数多く刊行されています。しかしながら、稲盛が実践してきた「哲学」にもとづく経営、「人間として何が正しいのか」という視点について、本来行われるべき多様な学術分野による総合的研究（体系化）は、ほとんど例がありませんでした。

立命館大学の本センター設立にあたっては、哲学・心理学・経営学・社会学・教育学・政策科学など、人文・社会学系分野を中心とした多様な専門領域をもつ研究者が参集し、社会における稲盛の「利他」の精神にもとづく経営哲学の「普遍化」「一般化」のありかたを学融的に探り、加えて教育面での実践活動を伴った研究活動を展開しつつ、人間の生き方の形成、人づくりに有意な貢献を果たすことが目的とされています。

[参考 URL [http://www.ritsumei.jp/news/detail\\_j/topics/?news\\_id=13194&year=2015&publish](http://www.ritsumei.jp/news/detail_j/topics/?news_id=13194&year=2015&publish)]

### センター基本情報

#### 【名称】

立命館大学 OIC 総合研究機構稲盛経営哲学研究センター  
(Ritsumeikan Inamori Philosophy Research Center)

【場所】 立命館大学 大阪いばらきキャンパス  
大阪府茨木市岩倉町 2-150

#### 【研究内容】

- (1) 経営学・心理学・社会学・人類学・哲学・教育学他多様な学術分野からのアプローチによる稲盛経営哲学の「普遍化」「一般化」の究明
- (2) 稲盛経営哲学の実践による人づくり、教育の実証研究（ワークショップの開催、国内外の若手研究者の招聘を軸とするリサーチプログラムの展開、立命館大学および附属校における教育実践活動など）
- (3) ワorkshopの開催、国内外の若手研究者の招聘を軸とするリサーチプログラムの展開、立命館大学および附属校における教育実践活動など

#### 【ホームページ】

立命館大学稲盛経営哲学研究センター  
URL <http://www.ritsumei.ac.jp/research/riprc/>

## 思想・芸術部門 授賞対象分野：思想・倫理

マーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士



## ケイパビリティ・アプローチによる正義論の深化とその実践

ヌスバウム博士は、正義の基準に、合理的な諸個人間の社会契約に基づく平等にとどまらず、人が「何かになる・何かをする」潜勢能力（ケイパビリティ）を十全に開花させることを導入し、社会においてそれらが疎外されている弱者へのまなざしを備えた独自の正義論を提唱、社会的実践に開かれた議論を展開している。

## 弱い者の身になって考える

ヌスバウム博士はアメリカの WASP として裕福な家庭に生まれるも、その差別意識の強い上流社会での生活に違和感を覚えていた。博士を研究へと駆り立てるものは、人間の脆さであり、差別や貧困に直面する人々がいるという現実だった。ハーバード大学大学院にて古典学・哲学を学び、1975年にアリストテレスの動物運動論をテーマにした論文で博士号を取得。1987年から1993年、ヘルシンキの世界開発経済研究所において、アマルティア・セン博士（ノーベル経済学賞受賞者）と「生活の質」に関する共同研究を行った。これが博士独自のケイパビリティ・アプローチ（capabilities approach）を展開する重要な契機となった。



コロンビアの低所得者向け住宅プロジェクトと青年センターのオープニングでの博士

## ケイパビリティ・アプローチ：正義論の深化

従来の正義論、特にジョン・ロールズの『正義論』は、生涯にわたって正常かつ十分に協働できる合理的な諸個人の合意に則った原理に従い、富・自由・権利などを平等に配分することを正義と捉える。しかし、それでは、例えば障がいのある人々と健常者の間で実際に何ができるかという点での不平等は解消されない。車いす利用者と非利用者に同額の交通費を平等に渡したとしても、公共スペースがバリアフリーでなければ、車いす利用者はさらなるコストがかかり、非利用者と同じように移動することができないからである。したがって目指すべきは、単なる富や効用の平等ではなく、実際に人が「何かになったり何かをしたりする」可能性としてのケイパビリティ（潜勢能力）を基準にした平等である、というのがセン博士とヌスバウム博士によるケイパビリティ・アプローチの根幹である。ヌスバウム博士はこれを新アリストテレス主義の立場から哲学的に基礎づけ、生涯にわたって正常かつ十分に協働できる合理的な個人という従来の正義論



法と文学における犯罪をテーマとする2014年の学会で、アイスキュロス作『オレスティア』に登場する女性の人物に扮するヌスバウム博士

における前提が、重い障がいを持つ人々などを例外的な状態として扱うことで排除していると批判し、彼らに適うように正義論を深化させた。生まれたばかりの時期や、老いによる心身の衰えが顕著な時期は、誰も正常で十分に協働できる合理的な個人ではありえない。人間とは、死にゆく身体を持ち、他者を必要とし、障がいを抱える存在であるという視点に立つヌスバウム博士は、健康や身体の不可侵性のみならず、想像力や思考力、他者や他の生きものに対する濃やかな気遣いなどを「人間の中心的なケイパビリティ」としてリストアップした。

## 尊厳のある人生に向けて

ヌスバウム博士はケイパビリティのリストを、多様な文化を超えて合意できるような、尊厳のある人生の中心的な要件として独自に提示した。それは単なる哲学的な理念にとどまらない、社会的・政治的目標であって、人々がケイパビリティを開花させることができる状況を整えることが必要であるとする実践的な議論へと展開するものである。



## 第 32 回(2016)京都賞思想・芸術部門受賞者 業績

授賞対象分野：思想・倫理

### マーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士

#### ケイパビリティ・アプローチによる正義論の深化とその実践

マーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士は、現代における正義論、法理論、教育論、発展途上国への開発援助、フェミニズムといった広範な領域において主導的な議論を展開してきた哲学者である。

ヌスバウム博士が、古代ギリシア悲劇とアリストテレス哲学の読解から出発し、そこから築いていったのは、いわゆる西洋近代の理性的個人主義の立場を批判し、情感のもつ倫理的価値を重視する姿勢であり、そして複雑に変容するグローバルな社会状況のなかで、価値や感情の対立を含みながらも、ともに善き生を実現しうる倫理を提示しようとする姿勢である。

ヌスバウム博士の仕事のうちで最も有名なのは、人間におけるケイパビリティ（capability：潜勢能力）の開花についての理論である。これは、哲学と経済学を再統合しようとした経済学者、アマルティア・セン博士との長年にわたる共同研究の成果をさらに独自の仕方でも展開したもので、ヌスバウム博士は、アリストテレスのデュナミス（潜勢態）の概念を再解釈しながら、人が「何かになったり何かをしたりする」可能性としてのケイパビリティを拓き、十分に開花させることが、リベラリズムが実現すべき正義の基準であると提唱した。たとえば貧困問題も単なる財の欠如ではなく、ケイパビリティの発展が閉ざされていることと捉え直し、そうした角度から、具体的な福祉政策や発展途上国への開発援助を論じてきた。また、ケイパビリティの発想から導かれるこの社会正義の理論をもとに、アメリカ国内の反同性愛立法や発展途上国における性差別の慣行、さらにはポルノグラフィによる人格の「物」化などに対して、批判的な検討を加えてきた。

ヌスバウム博士は、健康や身体の不可侵性のみならず、自由な想像力、批判的な思考、他者や他の生きものに対する濃やかな気遣いなどを個人のケイパビリティとしてリストアップする。そのリストは、ジェンダーの平等や児童福祉の政策に関する議論と人間開発の評価の基軸として活用され、さらには人権学習における教材として各国で使用されている。同時にヌスバウム博士は、デモクラシーの基礎としてのリベラル・エデュケーションと、異なる文化への想像力を陶冶しそれらとの共存を模索する多文化主義教育の必要を強く唱えてきた。また、インドをはじめとして文化的背景を異にする人々ともきめ細かな論議をくり返し試みてきた。

ヌスバウム博士はまた、法の感情的な起源についての研究にも精力的に取り組み、刑罰政策や立法論にも影響を与えてきた。それは、怒りや嫌悪、羞恥などのネガティブな感情の本性を検討したうえで、人間のヴァルネラビリティ（脆弱性）が犯罪やそれに対する制裁といかに結びついてゆくのかを数多くの判例から析出しつつ、いかなる法制が必要となるのかを提示するものである。これらの研究は、「異なる者」への排撃が日々昂進しつつある現代世界において、その根源的問題性を摘出し、解決に向けた新たな指針を示すという実践的な意義をもつものである。

このように、ヌスバウム博士は、善き社会を実現するための社会哲学・倫理学の探究と、それに基づくさまざまな社会的実践への提言とを通じて、劣化しつつある公共領域の再構築と、人類諸文化の共存・交響への道を、現在もなお深い使命感をもって探究し続けている。

## 第 32 回(2016)京都賞思想・芸術部門受賞者 経歴

授賞対象分野：思想・倫理

マーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士 (Dr. Martha Craven Nussbaum)

哲学者

所属・役職 シカゴ大学 エルンスト・フロイド法学・倫理学特別功労教授

生年月日 1947年5月6日 国 籍 アメリカ

### 略 歴

1947年 米国ニューヨーク生まれ  
 1975年 ハーバード大学 博士 (西洋古典文献学)  
 1980–1983年 ハーバード大学 哲学・古典学准教授  
 1984–1985年 ブラウン大学 哲学・古典学准教授  
 1985–1989年 ブラウン大学 哲学・古典学・比較文学教授  
 1987–1993年 国連大学 世界開発経済研究所 リサーチ・アドバイザー  
 1989–1995年 ブラウン大学 ユニバーシティ・プロフェッサーおよび哲学・古典学・比較文学教授  
 1995–1996年 シカゴ大学 法学・倫理学教授  
 1996–1998年 シカゴ大学 エルンスト・フロイド法学・倫理学教授  
 1999年 シカゴ大学 エルンスト・フロイド法学・倫理学特別功労教授

### 主な受賞と栄誉

2012年 アストゥリアス皇太子賞  
 2012年 フィンランド白薔薇勲章 (ファーストクラス・ナイト)

会員： 米国芸術科学アカデミー

### 主な著作

*The Fragility of Goodness: Luck and Ethics in Greek Tragedy and Philosophy*, Cambridge University Press, 1986.

*Women and Human Development: The Capabilities Approach*, Cambridge University Press, 2000. (『女性と人間開発：潜在能力アプローチ』池本幸生・田口さつき・坪井ひろみ訳 岩波書店 2005)

*Upheavals of Thought: The Intelligence of Emotions*, Cambridge University Press, 2001.

*Hiding from Humanity: Disgust, Shame, and the Law*, Princeton University Press, 2004. (『感情と法：現代アメリカ社会の政治的リベラリズム』河野哲也監訳 慶應義塾大学出版会 2010)

*Frontiers of Justice: Disability, Nationality, Species Membership*, Harvard University Press, 2006. (『正義のフロンティア：障害者・外国人・動物という境界を越えて』神島裕子訳 法政大学出版局 2012)

*Political Emotions: Why Love Matters for Justice*, Harvard University Press, 2013.

*Anger and Forgiveness: Resentment, Generosity, Justice*, Oxford University Press, 2016.